

成果の説明書

(氏名)	中村 匡克	(学部)	地域政策学部
1 重要事項			
(1) 研究	<p>以前実施した経済実験によって得られたデータを用い、研究論文（中村匡克・山森哲男（2022）「公的支出および課税の前後における個人の利他的行動～独裁者ゲームの経済実験による検証～」『地域政策研究』25(2), pp.19-37.）を執筆した。また、同研究については、公共選択学会第26回全国大会（名古屋市立大学）にて報告した。</p>		
(2) 教育	<p>今日の教育活動においては、教員から学生への一方通行型学習ではなく、教員学生相互の議論を通じた双方向型学習が求められていることから、2020年度に作成した講義動画を予習復習に活用し、授業では議論を中心とすることとした。学生の反応は、議論をしたり学生に意見を求めたりする授業は少ないらしく、新鮮だったとの回答を得ている。ただし、事前の予習復習の徹底は難しく、今後の課題となっている。</p> <p>また、（現在の指導学生ではないが）かねてより指導してきた大学院生の論文執筆指導（計量分析や文章校正、特目に査読者への回答指導なども含む）を積極的に行った。その結果、同大学院生の投稿論文は学会誌（『計画行政』）に査読付き論文として掲載されるに至った。</p>		
(3) 学内業務	<p>地域政策学会（学内学会）の会長長として、学会誌の発行（1～4号）、学術文化講演会の開催（4回）、情報誌『APPROACH』の編集発行などこれまでの学会事業を遂行する一方、事業内容を見直して逼迫する学会財務の立て直しを図ったほか、新たに地域政策学会学生委員会（以下、学生委員会）を立ち上げ、学会活動に学生会員の意見が反映される仕組みを作った。学生委員会には10名を超える学生が集まり、学生委員は学術文化講演会の企画運営やオリジナル冊子『Regio（レギオ）』の編集出版、学会事業の運営支援など学会活動に積極的に取り組んでくれた。</p>		
(4) 社会貢献	<p>計画行政学会常務理事、経済政策学会関東部会理事としての仕事に取り組んだ。また、群馬県大規模小売店舗立地審議会委員、吉岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会委員長としての仕事に取り組んだ。</p>		
2 その他の事項	特になし		
3 次年度以降の計画・抱負	<p>研究活動においては、学内外の研究資金の獲得を目指し、中村・山森（2022）の研究をアップデートさせるとともに、従来の研究分野における論文執筆も積極的に進めたい。教育活動においては、双方向型学習の取り組みを進められるよう自身のノウハウを高めたい。</p>		